

## ～ セピア色の風景 ～

## 「雀追い」

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

その活躍の場所は、田んぼ  
のご真ん中の高床式の小屋。  
小屋といっても、屋根と柱と  
床のみだ。

お盆前あたりが、稲の穂が  
出る時期（出穂期・しゅつす  
いき）で、追い払う敵の雀た  
ちは集団で現れ、その穂の中  
にある米粒になる前の白い汁  
をいただくのである。

田園一帯で同時に穂が出れ  
ば、対象となる穂が膨大であ  
り、平均すれば一農家の被害  
はさほどではない。しかし稲  
の種類によって、絶妙に穂の  
出る時期が異なるので、先に  
出たところが敵に狙われるわ  
けである。それを追い払うの  
が、農家の男の子がやる夏休  
みの仕事だった。

後に定期的にドーンと鳴る  
「ガス鉄砲」なる「農機具」も  
現れたが、敵もさるものすく  
に慣れてしまって、やはり人

間がやる追い払いが、最も効  
果的であった。

わが家が所有する田んぼが  
集中しているところの堀の上  
に小屋を建て、そこから四方  
に綱を伸ばし、先端に一斗缶  
など音の鳴るものと棒を吊る  
し、敵がくれば綱を引き音を  
鳴らして追い払った。それ  
も、という敵には自ら缶を  
持つてあぜ道を走った。

敵にとつては朝、寢床の海  
側の松林を出て、陸手・山手  
に行く途中が「朝食時間帯」  
なので、当然われわれの勤務  
時間は早朝より午前の早い時  
刻までが常だった。

かような小屋での作業だっ  
たので、どんな酷暑の日でも  
風は遮るものはなく、あたり  
一面水と緑ということもあつ  
て、居心地は快適であった。  
その快適さにつられて、日  
中の食い物と夏休みの宿題を

持つて小屋に出かけ、出穂期  
独特の田んぼの香りの風に身  
を任せることもしばしばだつ  
た。

また、覆いかぶさる入道雲  
に気付かず、退散するタイミ  
ングを逃し、その雷雨に対し  
無防備な高床式小屋でなすす  
べもなく過ごしたこともあつ  
た。

伸びる草、揺れる稲、光る  
水、吹き抜ける風、草香る匂  
い、まぶしい陽、青い空、浮  
かぶ雲、冷ます雨、声掛け合  
う鳥、声潜める虫、時に解け  
合う音：と、その中のひとつ  
に「人」がいるだけの「真夏  
の少年時代」でもあった。

●あおた・しげお 1956年  
生まれ。福島県相馬市出身。20  
16年5月から仙台建設業協会の  
専務理事を務める